

豊かな海の森を目指して

白浦活動組織  
世古 昌英・鈴木 望海

# 白浦地区の紹介



・車でお越しの場合  
東京から……約6時間30分  
名古屋から……約2時間30分  
大阪から……約3時間20分

・鉄道でお越しの場合

東京	新幹線	名古屋	JR ワイドビュー南紀	紀北町(紀伊長島駅)
	1時間40分		2時間	
大阪	近鉄特急	松阪	JR ワイドビュー南紀	
	1時間30分		1時間	

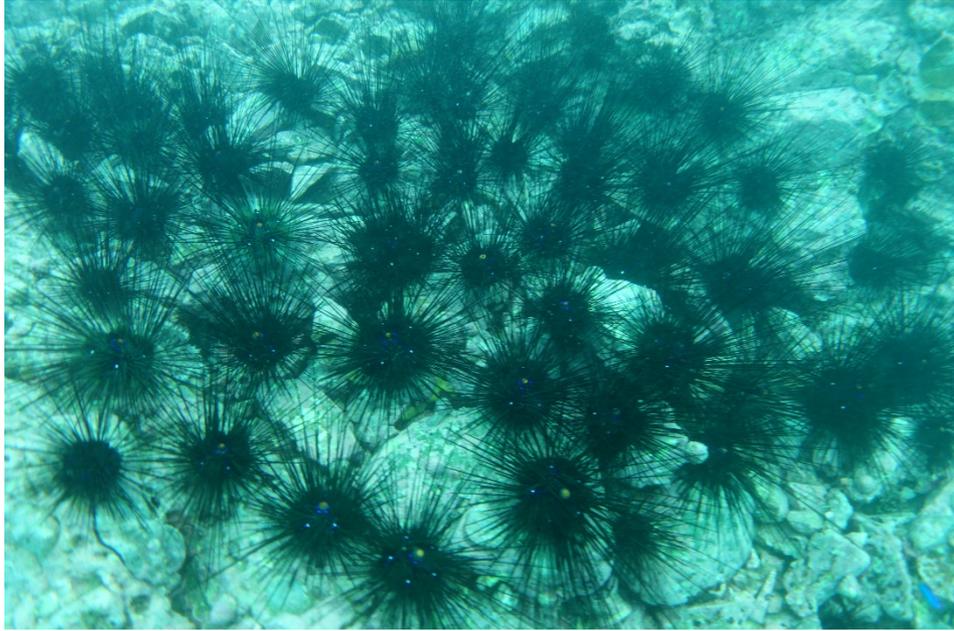
# 白浦地区の概要

人口185名、65歳以上69.7%  
(R1.11月末現在)  
の限界集落(極めて小さい漁村)

地区の主な漁業(経営体数):  
イセエビ刺し網(9)、  
マダイ養殖(4)、  
小型定置網(2)、  
一本釣り(底物等)(10)



# 白浦地区の活動前の現状と課題



5～6年ほど前から刺し網にガンガゼが多くかかる

→漁業作業に支障が出る

(ガンガゼを網から外す手間、他の魚介類がかからない等)

同時期、磯焼けが目立つようになる

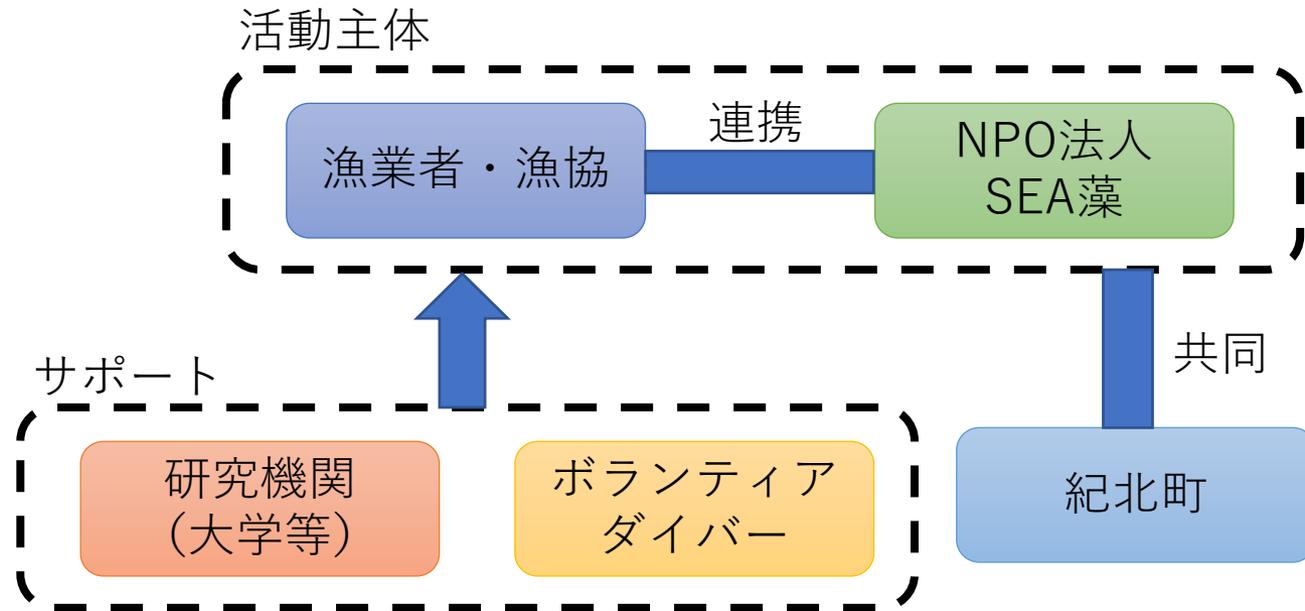
→藻場の減少、漁獲物の減少の懸念

十数年前から、地元には海女がない

→海中を定期的に、正確に把握できない

藻場に関する知識不足、人材不足等により漁業者だけでは対策できない。。。

# 活動組織発足の経緯



NPO法人SEA藻：三重県で藻場再生を目的としたガンガゼ駆除活動を実施。

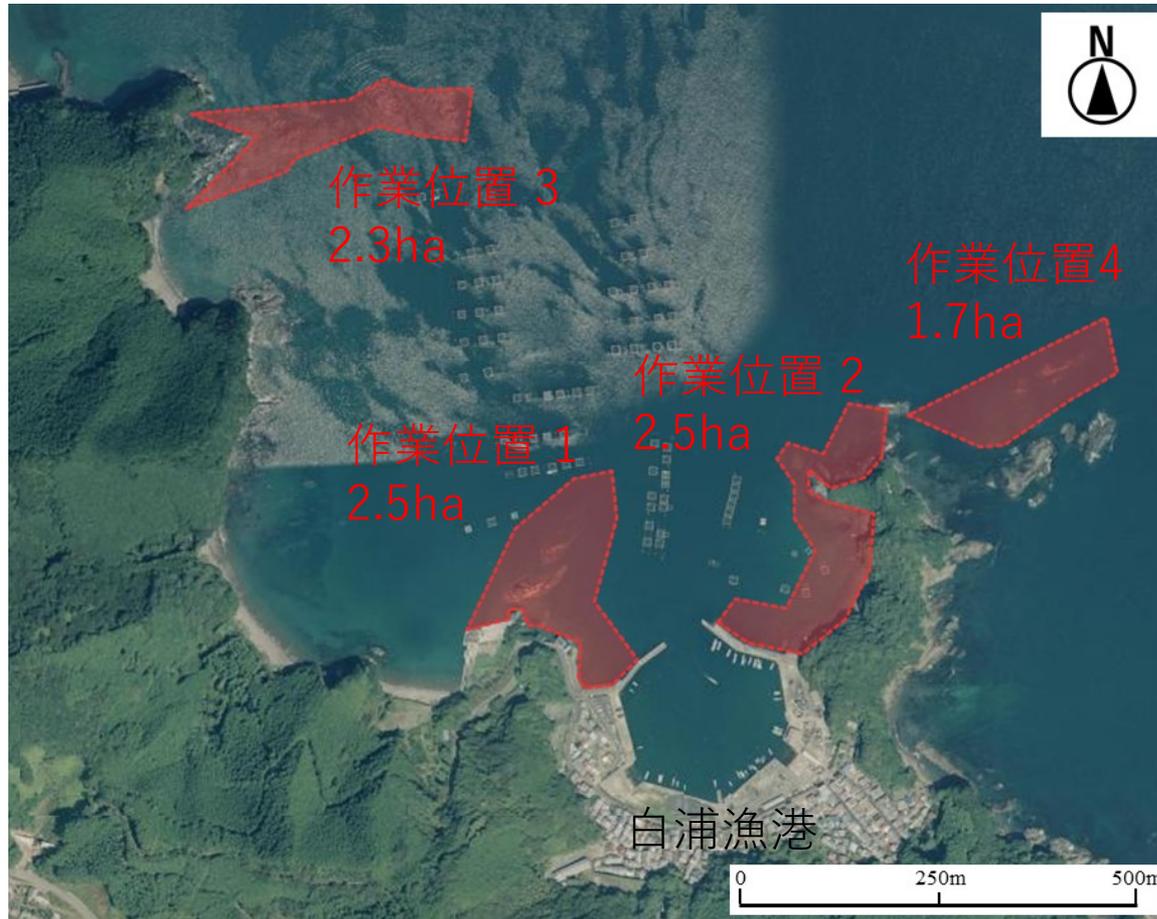
理事：ダイビングショップスタッフ、三重大学名誉教授

研究機関：主として三重大学生物資源学部藻類学研究室

ボランティアダイバー：大学ダイビングサークル、ダイビングショップ利用者

駆除や調査の知識・技術を持ち、人材の確保も可能なNPO法人と連携し、  
地域・行政と共同で課題解決に取り組む！

# 活動組織の概要



※  
活動当初は、  
作業位置 1  
作業位置 2 の5haで活動を行  
い、  
平成29年度から  
作業位置 3  
作業位置 4 を、協定変更して  
追加し、協定面積を9haとした。

白浦でのガンガゼ駆除活動：平成27年6月～

活動組織発足年月日：平成28年3月25日

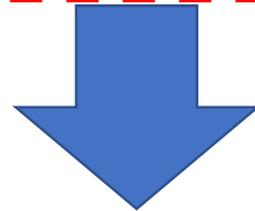
構成員：漁業者7名、漁協組合員1名、NPO法人SEA藻7名

協定面積：9ha

# 活動の目標

目標

藻場の再生・維持



活動の目的

白浦地区の海域における基礎生産、漁業資源の回復・維持を目指す

+

NPO法人の活動目的

- ・ 地元の方への地域貢献
- ・ 活動に参加した方が地域に関心を持ち、再訪する等の地域活性化に期待

# 活動計画

活動項目	活動内容	実施年度				
		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
藻場の保全	食害生物の除去 (ウニ類)	5ha	7.3ha	9ha	9ha	9ha
	母藻の設置	5ha	7.3ha	7.3ha	-	9ha
	保護区域の設定	5ha	7.3ha	7.3ha	7.3ha	9ha
	海藻の種苗投入	-	-	(2.5ha)	9ha	9ha
	モニタリング	5ha	9ha	9ha	9ha	9ha

※

平成29年度から協定変更して活動場所を追加し、協定面積を9haとした。

平成30年度に、試験的に海藻の種苗投入を実施した。

令和2年度の活動内容は実施予定。

# 平成30年度の活動スケジュール

活動内容	平成30年									平成31年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
食害生物の除去 (ウニ類)		○		(○)		○	○					
母藻の設置							○					
保護区域の設定												
海藻の種苗投入											(○)	
モニタリング		○							○			

※

保護区域の設定は、過年度から漁網を用いたウニ侵入防護柵を設置しており、平成30年度は新たな防護柵の設置は行わなかった。

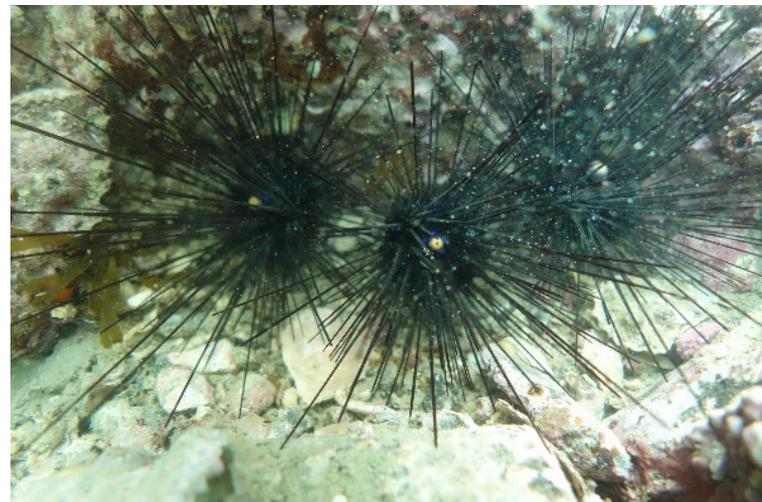
食害生物の除去（ウニ類）の7月、海藻の種苗投入の活動は、水産多面的機能発揮対策事業以外の費用により活動を行った。

# 事前モニタリング H30.5.12

《事前調査結果（作業位置1、定点1）》

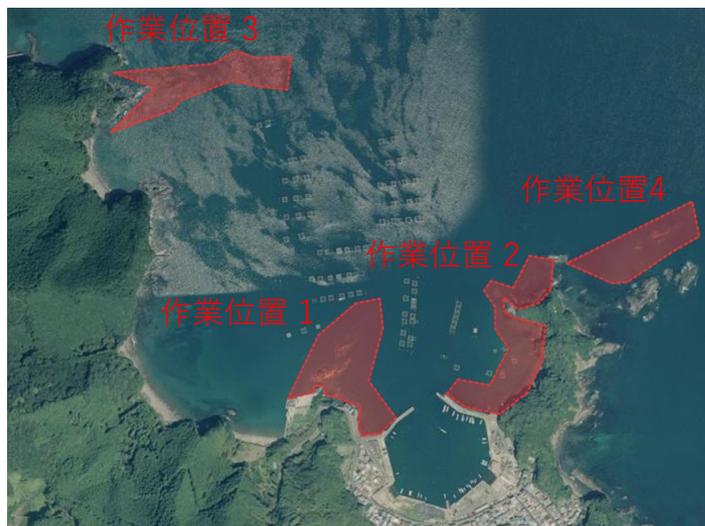
ガンガゼ類密度：0.7個体/m<sup>2</sup>

海藻被度：50.2%

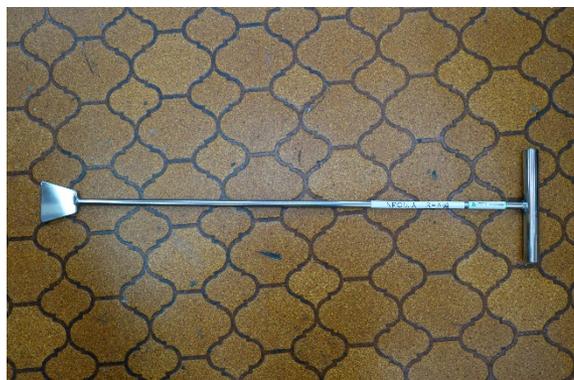


# 食害生物の除去（ウニ類）

H30. 5月～10月



作業日	参加人数	駆除数			
		作業位置 1	作業位置 2	作業位置 3	作業位置 4
5月26日	19名	—	—	13,301	—
7月14・15日	17名	—	7,814	—	9,211
9月15日	18名	—	—	5,794	4,370
10月20日	19名	10,405	—	—	1,882
合計	73名	10,405	7,814	19,095	15,463
		52,777			



ウニ駆除棒

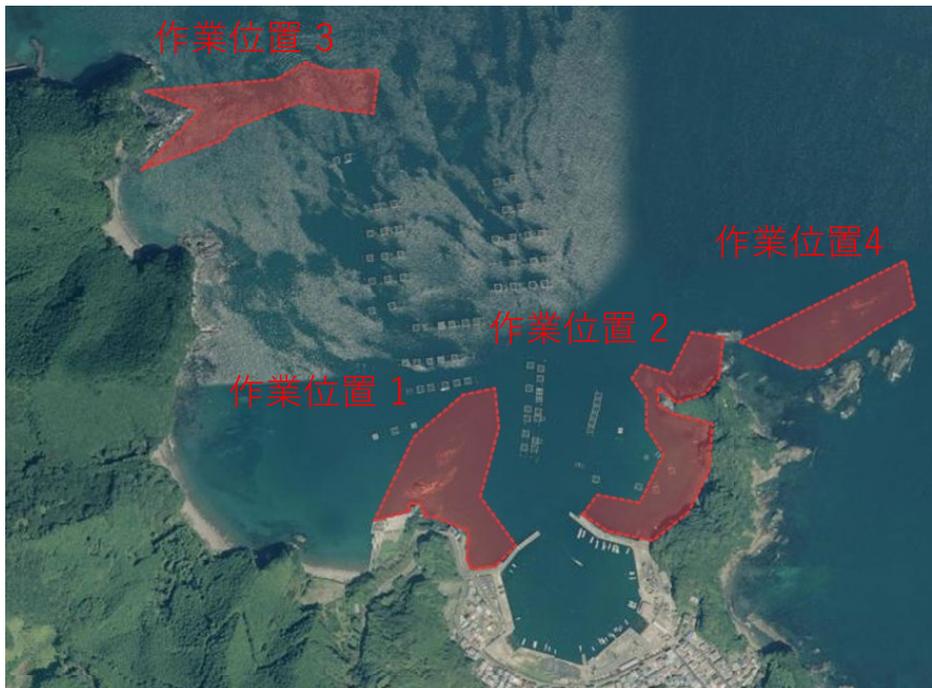
参加者：のべ73名

除去総数：52,777個体

（H27年度～：171,288個体）



# 母藻の設置 H30. 10. 24

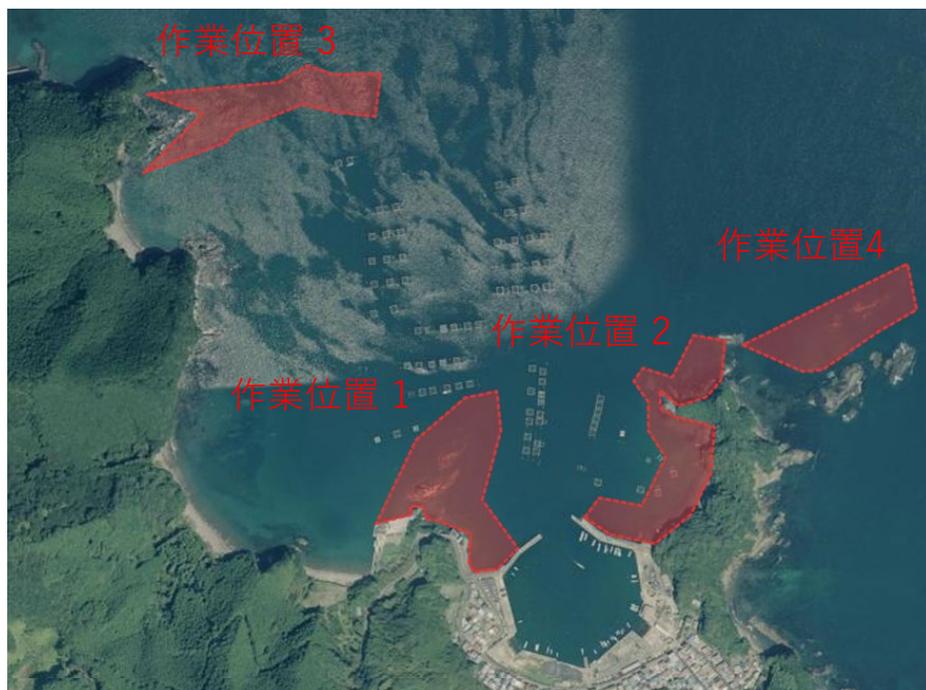


## 《母藻設置結果》

- 周辺に生育するアラメ・カジメを採取 (7.95kg)
- 作業位置1、2、3の各3カ所、計9カ所に母藻を入れた網袋 (スポアバック) を設置



# 海藻の種苗投入 H31. 2. 22



## 《種苗投入結果》

- アラメ種苗を種苗板に装着 (10cm、20個)
- 作業位置1に種苗板を設置



種苗消失. . .

約3週間後

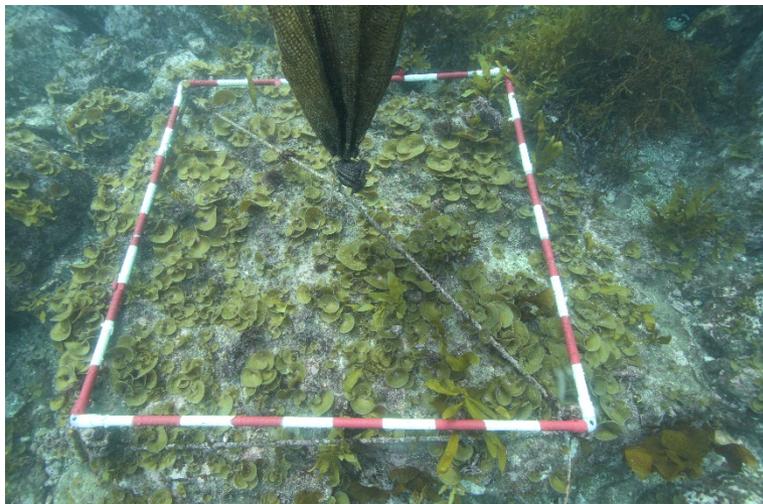


# 事後モニタリング H30.12.16

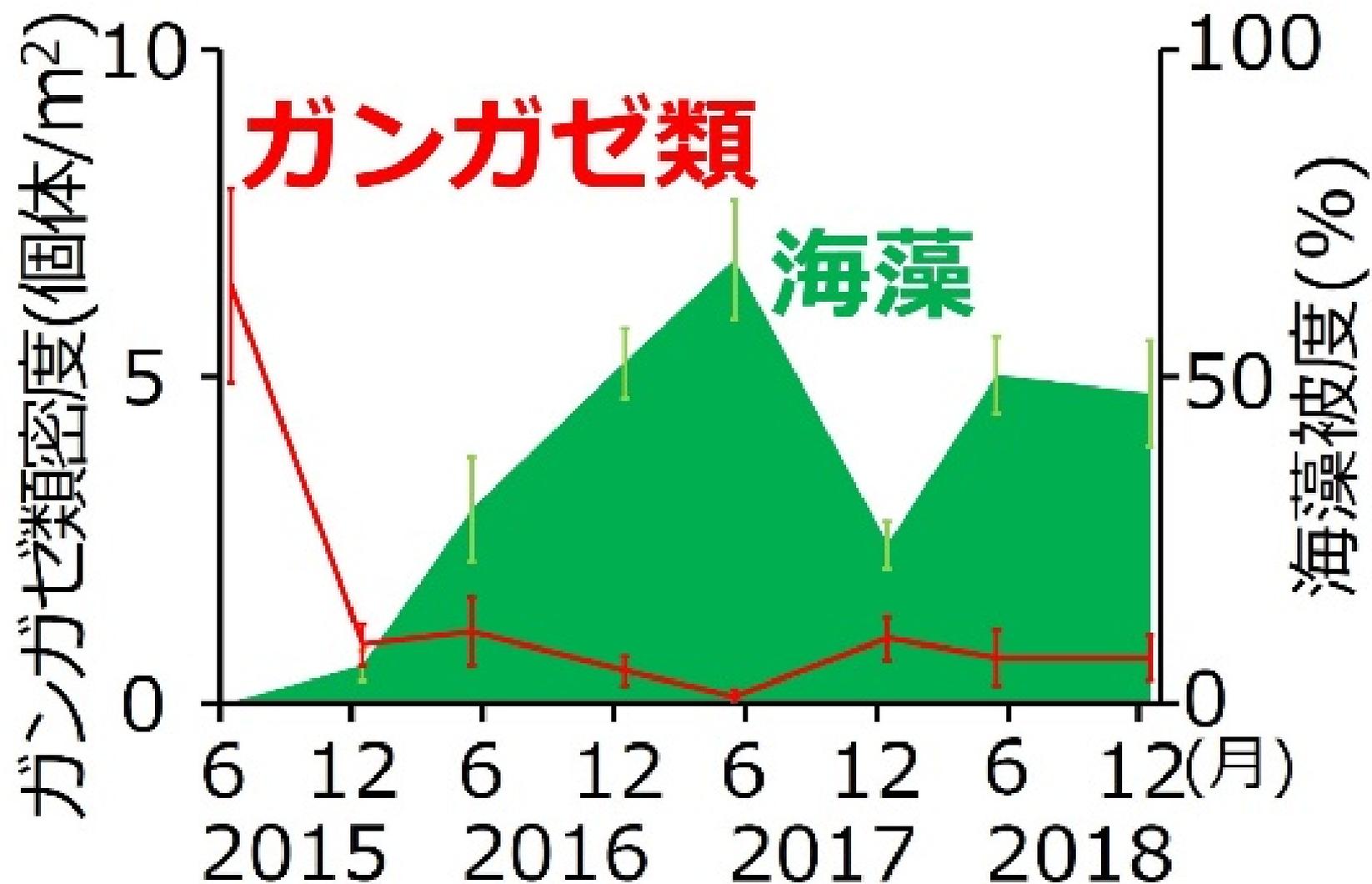
《事後調査結果》

ガンガゼ類密度：0.7個体/m<sup>2</sup>

海藻被度：47.4%

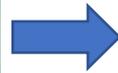


# 藻場の再生状況

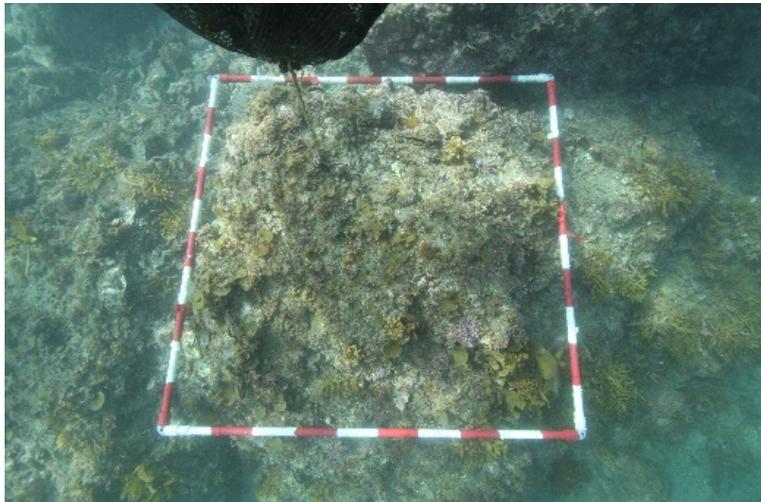




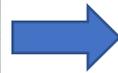
H27年6月



H30年5月



H30年12月



R1年12月

平成27年6月 駆除活動

平成30年5月 モニタリング

# 今後の課題 ①

ガンガゼ類の密度維持 →→→ 適切な駆除回数の検討

課題

→ 継続して安定的に参加者が確保できるか

★安定的な人員確保

水産高校との協力

課題：  
活動地域との連携方法  
(都市間留学・都市交流等の  
協定締結が必要?)

★魅力ある活動内容  
→参加者の再参加  
★地域での交流  
→地域貢献

宿泊を伴う活動

課題：  
経済面  
(多面的事業外の費用の確保  
の必要性)

# 今後の課題 ②

自然による海藻の増加 →→→ 種苗投入の実施

課題

水産有用種（アラメ等）の増加

★防護方法の検討

★種苗の生育に期待

有用種の増加

多年生の大型海藻へ

課題：  
魚による食害の可能性

課題：  
希望する海藻を上手く育てる方法